

輸出事業計画

※申請者名：桃日和、品目：もも、りんご

1. 輸出における現状と課題

＜輸出の現状＞

- ・山形県東根市のさくらんぼ農家が、さくらんぼに次ぐ新たな経営の柱としてももに着目。
- ・収穫期が遅く、国内需要期の出荷が難しいことから海外に販路を求め、平成25年から輸出開始。
- ・検疫条件が厳しく競合が少ない台湾を主なターゲットとし、中秋節の時期に富裕層向けの大玉を出荷。
- ・令和2年度の輸出実績は約2.2t(川中島白桃、幸茜など)。
- ・需要が見込まれる香港へ、ももの輸出、りんごの試験輸出を開始しており、さらに輸出量を拡大していく。

＜輸出の課題＞

【生産】・ももは9月中旬まで出荷可能な晩成種、りんごは需要がある「はるか」の生産量が足りない。

【検疫対応・流通】(台湾向け)

- ・もものエア－掛けに時間を要することや検疫手続きによる時間の制約で、一日の出荷量を増やすことができない。また航空便日程の関係で、一週間の出荷量も限られている。

【販売】(香港向け)

- ・りんごは試験輸出から本格輸出への移行、販路の確立が必要。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産】①需要の高い品種への新植・改植

- ・ももは「幸茜」や「伊達白桃」などの晩成種、りんごは「はるか」の新植・改植を進め、令和8年度までに安定的な生産量を確保できるようにする。

【検疫対応・流通】(台湾向け)

②検疫対策の徹底と、冷蔵貯蔵の活用検討

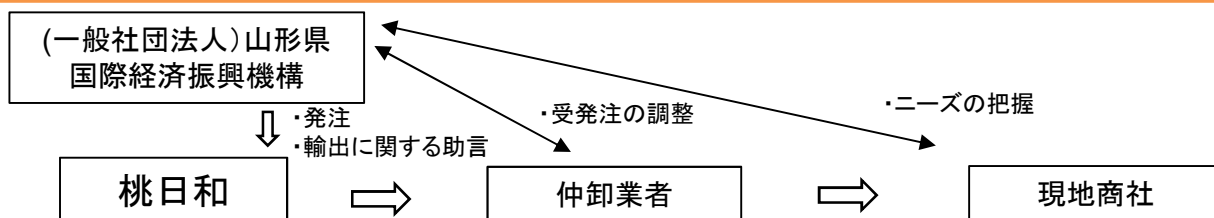
- ・ももの園地内でモモシンクイガの密度低下を図るため、交信かく乱剤を活用する。
- ・ももの出荷量を増やすことができるよう、冷蔵貯蔵施設の活用を検討する。

【販売】(香港向け)

③りんごのセット販売による販路の確立

- ・りんご「はるか」の生産量増加に伴い、国内向け「ふじ」を輸出向けへ切り替え、セット販売により輸出量の拡大、販路の確立を目指す。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

もも	現状 (令和2年度)	目標年 (令和8年度)	りんご (はるか)	現状 (令和2年度)	目標年 (令和8年度)
輸出額	180万円	400万円	輸出額	1万円	50万円
輸出量	2.2 t	5.5 t	輸出量	0.01 t	1 t
輸出先国	台湾、香港	台湾、香港、マレーシア	輸出先国	香港	香港、マレーシア